

2月3日 アクティブラーニング思考力特待入試 **グループワーク****【出題の狙い】**

- ① 課題に対して主体的に取り組み、直面する困難にも粘り強く向き合うことができる。
- ② 他者の異なる意見を受け入れるだけでなく、自身の考えを表明することができる。
- ③ 独自の視点や価値観からアプローチし、議論を活性化させることができる。
- ④ 臨機応変に他者と協働し、他のメンバーを活かし、対話の質を上げることができる。
- ⑤ 意見を1つに絞る場面、グループで意思決定する場面で対話や協働を引き出すことができる。

【結果講評】

今年のテーマは「本屋」でした。今回の入試は大きく分けて「アイデア抽出ワーク」と、「本屋をつくるワーク」の2本構成でした。まず初めに個人で「心地よくてホッとして、あなたが幸せに感じるモノ」を思いつく限り付箋に書き出してもらい、書き出した付箋からお気に入りの1枚を選んでもらいました。さらに選んだ言葉から連想されるものを再度付箋に書き出して共有しました。その後グループ内で、他者の付箋から印象的な言葉を2枚「選ぶ」、グループで印象的な言葉を2枚に「絞る」というワークを行いました。本屋を創り上げるワークでは、前述のワークで絞った2枚の言葉を組み合わせて「ちょっと不思議で幸せな本屋」をつくりました。「どのような本屋にできるかの対話」、「15冊の本を使って本屋さんを表現」、「劇で表現」の順番で行い、イメージしている本屋をより具体化できるような段階を用意しました。

全体的に、受験生は自身と関わりのある単語と本屋を繋げようとする姿が印象的でした。他者との対話で本屋をつくる際、グループの方向性を定めようとする行動ができていたように見えました。本屋の価値観が変わりつつある時代に、自分たちから出てきた言葉と結びつけて、本屋に新たな価値を付加することができている受験生もいました。本屋だけでなく、一見すると対象物と結びつかない単語だからこそ、組み合わせてみると新たな道筋が見えるという創造の体験になってくれればと思います。

【差が付いた問題】

出てきた案をどのように集約するか、どのように落とし込んでいくかという場面で、これから皆で考えていく題材について皆が納得しないまま進めてしまう姿、簡単に終着点を決めてしまう姿が散見されました。特に、本屋をつくるワークの「対話」・「本での表現」・「劇」の過程で自らの思考を素直に発信しつつも、グループとしての案をより良くするために、どのような役割で、どのように貢献しているかで差が出ました。グループの案がより良いものに、面白いものになるためにはどのような言動が必要であったかを考える必要がありました。



【次年度以降の受験生に向けて：指導される先生へ】

他者が発する意見を丁寧を受け入れる姿勢を見て、本試験に向けて準備している様子が伺えました。ただ、敢えて他者と意見をぶつけてみることで、思いもよらない案が出るのがグループで活動している価値だと考えております。自分だけでなく、他者を含めたグループ全体を輝かせることができる生徒を求めています。グループ活動での他者の受け入れやフォローだけにとどまらず、勇気を持って自らの意見や反対意見を言う勇気を持つなど、自身の役割を認識し、学びや探究を純粹に楽しめる受験生をお待ちしております。